

大東市歴史の散策道

～ 深野池堤防に沿って～

住道駅⇔住道駅 (所要時間 1 時間)

河内街道をたどりながら、水郷の風情が残る御領地区を訪ねた後、深野池のかつての堤防上を南下するコースです。大東市の平野の大部分は、江戸時代の大和川付け替えに伴う深野池の新田開発によるもので、水路に囲まれた低湿地は大東市の原風景です。また、中世、深野池に浮かぶ島に築かれたとされる三箇城や当時数千人いたとされるキリシタンの存在を示す遺構は未だ発見されておらず、三箇城は幻の城と呼ばれ、その場所については諸説あります。

(始)住道駅 ⇒ 住吉神社 ⇒ 三箇城跡 ⇒ 水月院跡 ⇒ 霽神社 ⇒ 永禄銘地藏
⇒ 菅原神社 ⇒ 北野神社 ⇒ (終)住道駅



住道駅



住吉神社

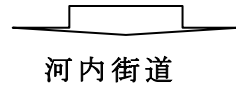
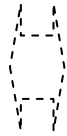
住道駅の北、寝屋川と恩智川の合流部にある住吉神社は、「住吉さん」と呼ばれ、当初は寝屋川の岸につき出して建てられていました。かつては「住道浜」とも呼ばれ水運で賑わった場所であることから、航海守護の神である住吉大社から勧請したものでしょう。





住道山 本伝寺

街道沿いに立つ新宗大谷派の本伝寺は宝永2年(1705)に伽藍が整備されて以来、当地の浄土真宗信仰の拠点となりました。境内には、天保2年(1831)、当時流行した伊勢神宮への「おかげ参り」を記念した「おかげ燈籠」があり、往時の面影を今に伝えています。



河内街道



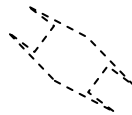
本伝寺南



住道北小西



旧権現川沿 (後方に飯盛山)



両皇大神社 (深野新田会所跡)

祭神は天照大神と菅原道真です。現在は深野地域の氏神として鎮座し、深野神社とも呼ばれています。以前、江戸時代に深野池が新田開発された際の深野北新田、深野新田を管理・運営をしていた深野会所があった場所です。



枚方市と八尾市を結んだ街道です。枚方伊加賀で京街道から分岐して枚方丘陵の西縁を南下し、中振、郡(こおり)・高宮(寝屋川市)を通り、雁屋(四條畷市)から南西に転じ、寝屋川沿いに住道(大東市)に至ります。そして古堤街道と交差してさらに南下し、また菱江(東大阪市)の西方で暗越奈良街道を横断し、最後に萱振(八尾市)を経て八尾に至ります。明治期は関西本線八尾駅が終点でした。

住吉神社から寝屋川沿いに河内街道を北へ進んでいくと、川の西側に三箇・菅原神社があります。隣接して三箇城跡を示す石碑と水月院の墓碑があります。墓碑の中に「城ハ灰埋ば土となるものや 何を此世に思い残さん」と刻まれているものがあります。この城とは三好長慶の家臣、三箇頼照の居城三箇城のことと考えられています。



三箇菅原神社





水月院跡（三箇菅原神社西隣）



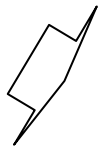
三箇城址石碑（三箇菅原神社横）



城へ灰埋ば土となるものや
何を此世に思い残さん

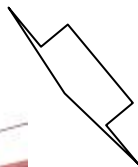


墓碑（水月院）



霽神社

三箇城跡から西へ移動すると、南北に走る府道沿いに水を司る神が祀られているとされる霽神社があります。以前、東側に広がっていた深野池の堤防上であり、堤防の決壊から集落を守るため、水を司る神を祀ったのではないかと考えられています。

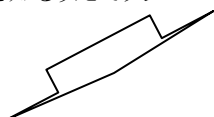


永禄銘地藏(市指定文化財)

霽神社からさらに西へ進むと御領地区です。地区内の西福寺横には永禄銘地藏があります。ここには、頼尊越後助という人物が永禄元年(1558)に逆修のため大乘妙典千部を供養したことが刻まれています。逆修とは生前に死後の供養を行うことで、当時の信仰を知るうえで大変貴重なものです。



御領のまちなみ





御領水路



御領 菅原神社

御領地区一帯は、かつては水郷の風景が広がっていましたが、現在はその水路の一部だけが保存されています。その水路の先にあるのが菅原道真を祀った御領・菅原神社です。かつては御領の開拓者といわれる11軒から成る宮座が存在し、神主を1年交替で務めていたとされています。



氷野 北野神社

御領・菅原神社から住道駅へと戻る道中に、氷野北野神社があります。祭神は御領・菅原神社と同じく菅原道真ですが、以前は素戔鳴命を祀っていたといわれています。灯籠は文政5年(1822)に氷野村より、狛犬は同年に赤井村より奉納されたもので、氷野・赤井の両地区が氏子であったことがわかります。竈神社から北野神社の境内にかけては、かつての深野池の堤防でした。



灯籠 (氷野北野神社)



氷野・キリシタン灯籠

キリシタン灯籠は利休七哲の1人、古田織部が考案したとされることから織部灯籠とも呼ばれています。キリシタン灯籠の性格については2説あり、単に庭園用の石灯籠とする説と、竿はキリシタン信仰の礼拝物とする説があります。氷野地域には、竿部分に一目、小芥子を思わせるような変わった尊像をもつキリシタン灯籠があります。

